

ひますワ……どつちか
云ふと、豪ふ大した人
やおまへんなア』

『もう云ふな。彼んな奴
の事思ひ出してムカ
くする。サア自暴棄
や。尻が腐ても歸らん
ぞ』

『鐵眼寺の達磨はんと根
競べして見なはれ』

『是から中蓋でグーツと
飲つて、北へ飲み直し
に往くのだ。熱してふ早よ持て来い』

『さア夫れから大きな器でドンく飲みます。』

『ウイー。ア、大分佳え氣持に成て來た。サア皆ぼつく
出掛けよか』



『ア、もし、大分お足元が
危なふムります。へエ繁
八がお手をお取り申しま
ひよ』

『其方へ往け。ゴツくし
た手エ出さない阿呆。サ、
美代鶴肩貸して呉れ』

『繁はん。勘忍やし……』
『ウワア。こら堪らん。こ
んな處見せて貰ふたら眼の
毒や。提燈持つてお先へ歩
かして貰ひまつさ。……
お元どん提灯一つ出しとく
なはれ。へエ誰方はんも足
元照らしまつさかい氣イ附
けて來とくれやすや。』

『サアく皆来いよ。誰や其處でフラくしてよるのは。品吉かい。アハ、豪い酔ひよつたナ。
オイ一八手を引いたれ危いがナ。コラ可笑しな顔すな。こんな時や無かつたら貴様等女の手なんて
觸られるかい。アハ、ウイー……花アはアか。よしーのーかーちやツちや……』
提灯の明りを便りに土橋の處まで掛つて参りますと、手拭で顔を覆した一人の男。裾を高々と掀げて
腰に長い刀を差したのがヌーツ。

『追刺ちやア』

と太い聲。イヤ藝妓帯間の連中、吃驚したのせんのや御座りまへん。

『キヤーツ』

バタくくくくく

『サア早ふ逃げなはれく。若旦那處やおまへん。命あつての物種や。跡
は野となれ山となれ。ウワー……』

バタくくくくく。……逃げ後れた若旦那の襟髪をグツと掴んで

『こーりや』

『ア、若し、決してお手向ひは致しません。身ぐるみ脱いで参ります。ど
ふぞ命ばかりはお助け…』

